

古文

⑥ 古典の基本問題

これやわが求むる山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり見歩くに、

天人のよそほひしたる女、山の中より出て来て、銀の金鉢を持ちて、水を汲み歩く。

これを見て、船より下りて、この山の名を何とか申すと問ふ。女、答へていはく、これは、蓬萊の山なりと答ふ。これを聞くに、うれしきことがぎりなし。

その山見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木も立てり。

金、銀、瑠璃色の水、山より流れ出でたり。それには、色々の玉の橋わたせり。そのあたりに照り輝く木ども立てり。

その中に、この取りてまうで来たりしは、いとわろかりしかども、のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで来たるなり。

『竹取物語2』

(一) 基本問題①

① さすがにとめぐりの意味をそれぞれ答えなさい。
さすがに(やはり) (めぐり) (まわり) ()

② 二、三日ばかり見歩くにとあるが、くらもちの皇子がそうした理由として適切なものを選びなさい。
(ウ) ()

- (ア) ようやく目的の山を探し当てて、少しの間休息をしたかったため
- (イ) 蓬萊の玉の枝がどこにあるのかをゆっくりと考えたかったから
- (ウ) ひよっとして何か危険なことがあるかもしれないと思ったため
- (エ) この山がとても美しかったので、しばらく見ていたかったから

③ よそほひの意味を答えなさい。
(恰好) ()

④ 銀の金鉢の読み方を書きなさい。
(しろかねのなまる) ()

⑤ これを見て、船より下りてとあるが、なぜ船を下りようと思ったのか。適切なものを次から選びなさい。

(ア) (ウ) ()

(ア) 銀の金鉢がとても高価なものだと思ったから

(イ) 天人のよそほひしたる女が美しかったから

(ウ) この山が蓬萊の山かどうか聞こうと思ったから

(エ) 恐ろしくおぼえた山だったが、人がいるとわかり安心したから

⑥ 蓬萊の山の読み方を書きなさい。

(ア) ほうらいのやま ()

⑦ さらにの意味を答えなさい。

(ア) 全然 ()

⑧ そばひらの意味を答えなさい。

(ア) 山の側面 ()

⑨ 金・銀・瑠璃色の読み方を書きなさい。

金 (こがね) () 銀 (しろかね) () 瑠璃色 (るりいろ) ()

⑩ それがさす言葉を抜き出して答えなさい。

(ア) 金、銀、瑠璃色の水 ()

⑪ いとわろかりしかどもの意味と、何が「わろかりしかども」なのか答えなさい。

意味 (とても見劣りするもの) ()

何が (この花の枝) ()

⑫ のたまひしとあるが、誰が「のたまひし」なのか。答えなさい。

(ア) かぐや姫 ()

⑬ 折りてまうで来たるなりは誰がそうしたのか。主語を答えなさい。

(ア) くらもちの皇子 ()

